

**【最も重要な人生の方向と優先順位】**

説教者: 鄭南哲牧師

聖書箇所: **マタイの福音書6:25-34節**/暗唱聖句: **マタイの福音書6章33節**

愛する CPC 信仰の家族みなさん、降り続いた雨の後でも変わらず残暑が続いています。一週間もいかがお過ごしでしょうか。残りの8月と新しく始まる9月今週中にも生きておられる神様を信頼し、神様との関係を保って、主と共に歩めますようにお祈り致します。

**1. 人生の方向が大切です。**

リーダーシップ研究の分野で世界的にも名声があったスティーブン・リチャーズ・コヴィー (Stephen Richards Covey, 1932年10月24日 - 2012年7月16日)博士が出版した彼のベストセラーの中で“まず大切なことをしなさい。(FIRST THINGS FIRST 7つの習慣最優先事項—「人生の選択と時間の原則 (単行本)」”という本があります。この本で彼は結婚された娘とある日、話した内容を紹介しています。彼の娘は結婚して三人目を産んで、子育ての真最中でした。娘は父であるコヴィー博士に会ってこのように言います。

“デーディ、私は最近とっても落ち込んでいます。もちろん私が私の子供たちをどれだけ愛しているかパパも知っているでしょう。しかしこの子は私のすべての時間を取ってしまっているのです。私はこの子がいるため自分のためには何もできません。”これを聞いたコヴィー博士はこのように答えたそうです。“わが愛する娘よ。ただ心を楽にしている。心を楽にしているこの子を楽しんでいなさい。あなたほどこの子達を愛してかえりみる人はいないでしょう。そしたらこの子らを育つことが一番大切なことだよ”

これに付け加えてコヴィー博士は経営指導者らしくない、とっても興味深いアドバイスを娘にすすめます。

“時間の管理などには気にしないで。カレンダーは忘れなさい。ただあなたの人生において一番大切なこの子らを楽しみなさい。壁にかけてある時計は気にしないで、あなたの内面のコンパスに従うだけだ。”

愛するみなさん！ 最後の話はとってもおもしろくありませんか。時計は時間を知らせてくれますが、コンパスは方向を提示します。スティーブンコヴィー博士はその日、娘に“時間の管理よりもっと大切なのは人生の方向である。その方向をやり直すことこそ時間の管理より大切である”という事実を伝えたかったのです。私たちはみな多忙な日々を過ごしています。ところが私たちを忙しくさせることはかならずしもそんなに大切なことではないかも知れません。時には大切よりかただ忙しいだけのことのため人生のエネルギーを無駄に使っている場合もあります。真に意味ある人生、そして価値ある人生があるならそれは時間に従ってただ忙しく動く日々ではなく、人生の正しい方向にむかって生きる人生だといえるでしょう。言い換えると価値ある人生とは正しく優先順位を確立し、それに従って生きる人生だと言えます。

**2. どうやって人生の正しい優先順位に従って生きることが出来るのか。**

今日の本文の御言葉を通してイエス様は価値ある人生とは目に見えるこの世ではない神の国という究極的な価値に優先順位をおいて生きることだ！ それこそ意味ある人生である！と自分についてきている弟子たちに言われています。今日の本文では私たちにも、とっても知られている箇所も出ていますが、それは**マタイの福音書6章33節**です。「**まず神の国と神の義を(第一に)求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。**」この御言葉は私たちの人生における優先順位の課題をよく取り扱っている箇所だと思います。しかし問題は私たちの人生にどうやって取り組んで適用すればいいのかです。

本文はそのためにまず思いわずらいから開放されなければならないと教えています。

今日の本文でイエス様は**5回も心配するな(25・27・28・31・34節)**と言われました。なぜイエス様はこんなに強調したのでしょうか。私たちに大切であってどんなに忙しくても優先的にしなければならないことがあるにもかかわらず、たえず、心配事のためにむしろたくさんの時間やエネルギーなどを費やしてしまいやすい私たちの人

生であることをよくご存知だったからではないでしょうか。ですから優先順位を正しく立てて行くにづれて私たちに一番の妨げとなっていることがまさに心配であることをご存知だったためイエス様は神の国と神の義を求める前にまず心配事を捨てなさいと言われたのです。

### ①心配自体は全然益にならない

すると私たちがなぜ心配をやめるべきであるか2つの理由を今日の本文から見出す事ができます。

一つ目は**心配自体が私たちに**とってなんの益にもならない**ことです。**

心配はとっても非生産的で、時には私たちを破壊するほどの力も持っているということです。

このように言われるとみなさんの中ではこのようにつぶやく方がいるかもしれません。

“先生！そのくらいならだれでも知っていますよ。心配することがなんのたすけにならないことを知っているのにもかかわらず、ついつい心配してしまうことをだれがとめるのでしょうか。”

**なぜ何の益にもならないことを知っていながら心配を続けるのでしょうか。**私は自分たちも知らないうちに‘**それにもかかわらず心配すること自体は大きな助けにはならなくてもある程度の助けにはなるだろう。**’という漠然とした期待があるため心配するのではないかと思います。それとも‘**自分の人生をだれが私の代わりに心配してくれるだろう**’という神様代わりに自分の役割を増やしているような考え方もあるかも知れません。つまり自分がすべてを心配し、計画し、解決しなきゃ!とか自分は自分でしか守れない!という**エゴティズム**つまり**自己中心主義**が自分にあるのではないのでしょうか。

今日の御言葉を通してイエス様は簡潔に私たちに教えています。心配することでよくなることはなにもないことをおっしゃいました。今日の本文の**27節**です。「**あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも自分のいのちを延ばすことができるのでしょうか。**」全然意味がない心配、心配しても何の益もならない心配のため私たちはどれだけ人生のエネルギーを費やしてきたのでしょうか。

本来‘**心配する(worry about)**’という単語はギリシャ語で“**メリムナオ**”という単語が使われています。これは‘**分ける**’という意味の‘**メリソ**’という単語と‘**心**’という意味の‘**ヌス**’という単語が結び合わせられてできた単語です。ですからギリシャ語で**心配の意味は“心を分ける”**こととなります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族のみなさん!わたしたちがいったん心配し始めると心が分かれ、かき乱されてしまいます。そのため、いざやるべきこと、もっと価値あることに集中できないように私たちを惑わします。心配に陥られたあげく、心が分かれるためもっと大切なことのために自分たちのエネルギーを尽くせなくなるということです。

### ②心配事のため大切な優先順位を見逃してしまったマルタ

ルカの福音書10章には、心が分かれていてあわただしく人生の方向を正しくつかめなかった一人の女のエピソードが書かれています。ある日イエス様がマリアとマルタ姉妹の家に訪ねます。マリアはイエス様の来宅にあまりの喜びでイエス様の足元に座って言われる言葉に集中して聞きます。一方マルタは自分の家に訪ねて来られたイエス様のためにどうやっておもてなしが出来るかいろいろやることばかりに心が分かれていました。

**私たちはここでマルタの奉仕、もてなし自体を間違いだと言っ**てはいけません。これはとっても間違っ**た誤解です。******

これはだれかがやらなければならないとっても大切なことでした。マリアの主に仕えたことほど、マルタの奉仕もとっても尊いことでした。そしたらいったい何が問題だったのでしょうか。結局マルタはりっばに働く中である瞬間つまずいてしまったのです。このように考えたかも知れません。

“私はこんなに死ぬほど働いているのにマリアは何をしているの。姉を助けようとしなくて、ただイエス様の前

でへつらっているのではないか。”

その瞬間マルタの心はかき乱れてしまいました。どんなことをさきにやるかあたふたしているマルタをみながらイエス様は何と言われたでしょうか。「主は答えられた。「**マルタ、マルタ、あなたはいろいろなことを思い煩って心を乱しています。(心配して気を使っています：新改訳3版)**」(ルカ10:41)

ここで使われた「思い煩う」という単語は今日の本文の御言葉に使われている「心配」という単語と一致しています。“マルタ。あなたがいろいろなことで心配しているのだが、どうしても必要な一つだけでも十分ではないか(今の状況に優先順位を明確に、明らかにしなさい)。”とイエス様は言われました。つまり分かれた心よりかはわずかの何か、あるいは今大事な一つのことに集中するのはどうかとイエス様は言われたのです。

そうです。私たちの分かれた心、そこでどんなことが生み出されることができるのでしょうか。それは私たちの信仰だけではなく、人生においてもなんの益にもなりません。そういうわけで聖書では心配するなどおっしゃっているのです。

それでは、心配しやすい我らがどうすれば、心配を克服し、人生の正しい方向に進み続け、日々優先順位をよく立て、守っていくことが出来るでしょうか。

### 3. 心配を克服する - ①神に委ね切って信頼すること

今日の本文を通して私たちに教えようとしている心配に対するもう一つは、**私たちがイエスキリストを信じる信仰をもっている者ならこのような心配を克服する方法をも知らなければならない**ということです。今日の聖書の31節を見てみてください。「**ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。**」

衣食と住むところの課題は確かにこの地上で生きている者であれば、だれにでも関心をもつところですが。

クリスチャンである私たちも、牧会者である私でさえ例外はありません。これは未信者でも、信者でも関係なく当てはまります。これにこだわる自体は間違いではなくむしろ当然なことです。しかし問題はそれに対して心配に陥ってしまうことです。

32節に、「**これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。**」

何を食べるか、何を着るか、何を飲むか心配しながらさまよう人生！このように生きることは異邦人つまり未信者たちの姿であることを教えています。しかし問題はクリスチャンだと言われているあなたたちも同じではないかとイエス様は指摘されたのです。

イエスキリストを信じているなら私たちはどこか違うところがあるべきではないでしょうか。もしかすると今日も、いまも一週間の生活において一つも違うところなく未信者たちと同じように心配に捕らえられてさまよい、同じように人生の重荷に押さえつけられて生きているではありませんか。私たちがささげるこの礼拝、私たちがイエスキリストを救い主として受け入れたという告白が自分たちの人生と生き方になんの変化と違い点がないなら信仰の生活に何の意味があるのでしょうか。この大切なチャレンジを今日イエス様も私たちにしておられるのです。

イエス様の弟子たちの中右腕ように熱心だったペテロは実はとっても心配症の人でした。そして彼は自分の感情をあまりコントロール出来ず、よく感情に左右されていた人でした。感情の起伏がはげしく大したことのないことにいつもさきに心配してしまう性格でした。そんな彼がイエス様を体験し、頼り、信頼することをまなび、信仰が深まった彼はこのように告白しました。

新約聖書第一ペテロの手紙5章7節、「**あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。**」使徒ペテロは強調します。“まことに神様を信じ、たよっているならなぜ心配するのですか。みなさん！あらゆる心配事すべて主にゆだねなさい。主があなたがたをかえりみてくださいます。

主がその責任をおってくださいます。全知全能の神様、その方があなたがたとともにおられます。人生の道をと

にいてくださいます。彼があなたがたを助けてくださいますから、その方を委ね切って、信頼してください。”

愛するみなさん!心配することをやめて克服していく者になるために私たちがかならずやるべきことがあります。それは**神様を信頼する事**です。**だいたい50%くらい頼り信頼するのではなく、100% 徹底的に神様を信頼し頼ること**です。これが今日の本文から学ばされる二つ目の大切な教訓なのです。

私たちが心配を克服することができないことは、言い換えると神様を十分信頼していないと言ってもおかしくはありません。神様をまったく信頼してない証拠かもしれません。神様を十分に信頼していないため心配しているのです。本文**26節**です。「**空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。それでも、あなたがたの天の父は養ってくださいます。あなたがたはその鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか。**」

空の鳥をみてください。野の花を見て見て下さい。ただ自分の力で生きているわけではありません。神ご自身が創られた創造物であるため、彼らを養ってくださり、自分たちに与えられている命のかぎりよく生きられるように見守られているのです!ならば、なおさら私たちは鳥たちより尊い存在だといわれます。

28節に、野の花を見てみてください。以前新改訳3版日本語聖書も、英語の聖書も「**野のゆり**」だと訳されていますが、**原文では「野の名前もない草」**を意味します。神様が野にさいている草ですら神様が育つのであれば、神の似姿によって造られたわたしたちはなおさらかえりみられるではありませんか。ご自分のひとり子であるイエス・キリストでさえ十字架につけ、死なせるほど私たちの罪を赦され、救い出して下さった神様が私たちに基本的な日用の糧と服などとともに、さらに良いものを与えようとするのは当然ではないでしょうか。

**問題は私たちがそれほど神様を十分頼らず、信じてないことではないでしょうか。**それでイエス様はまた言われます。**30節**です。「**今日あっても、明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くして下さらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。**」

イエス様は**信仰のない者たちだとは言いません**でした。当時イエス様を追いかけていた弟子たちに、そして今日私たちにもある程度の信仰があるのはご存知でした。しかし心配し続ける理由、考えすぎる理由、その心配から自由にされない理由、人生のフォーカスや優先順位が明確ではなく堂々と生きることができない理由に対して、**イエス様はあなたの信仰がまだ薄いからだ**と指摘されました!

自分たちの信仰はどのくらいなのか神様の御前でさぐってみましょう。

人生において心配がないはずがありません。予想もしなかった試練もやって来ては、苦難もあり、悩みも、痛みも襲って来る時があるでしょう。しかし、大切なことはその心配に目をとめさせてしまいおぼれず、目をあげて神様が私たちを助けてくださる事を信じ、神様だけが自分のあらゆる心配を解決して下さるお方であることを信頼し、すべてを委ね、頼ることが出来るように切に祈ります。“神様を信じて信頼しましょう。生きておられる神様を信じて信頼しましょう。創造主である神様を信じて頼りましょう。”

## **②日々最優先に神に求めるべきことを求め続けること**

最後に今日の本文をとおして強調されていることを調べてみて終わらせたいと思います。

**これからはずまず求めることを求めなさい**ということです。クリスチャンの勝利への秘訣は消極的には心配をやめ、積極的には神様を信頼する事です。しかしそこで終わりません。神様を信頼して最善を尽くさなければなりません。私たちは時々、信仰というのは神様を信じているから何もやらないでただ観覧することだと錯覚してしまう時があります。しかし決してそうではありません。**信仰は決して私たちに何もしないようにはさせません。自分が神様を信**

じているためその信仰によってさらに最善を尽くすようになるのです。空の鳥をよくみてください。鳥たちがただ観光しながら飛び回っていますか。違います。一生懸命に翼をはばたきます。そして勤勉にえさをさがしています。野にさいている草も見てみてください。地の深いところに根をはって栄養を吸収し生存のために最善の努力をしています。

ですから私たちも最善を尽くさなければなりません。信仰はけっして私たちをなまけに怠（おこた）らせません。信仰は以前よりさらに最善を尽くすように助けます。そうです。今日私たちも神様を徹底的信頼して最善を尽くしてみませんか。

しかし最善の中であっても優先順位があることを心に刻んでください。自分のやるべき最善の中での最善、さきだつ最善、一番価値ある最善、まず求めることはなんでしょうか。みなさんもよくご存知である 33 節です。ご一緒に読んでみましょうか。33 節「(だから)、まず神の国とその義とを(第一に)求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」アーメン!

**神の国を求める事はどんな意味でしょうか。**

日々神様のご支配！神様に治められること(御国が来ますように！)を日々求める事です。

私たちが心配するとき一番のおそろしさはその心配に陥る事です。そうすると心配が私たちの人生において主人になり、私たちの人生を支配してしまいます。そうすると神様を忘れていきます。そこから人生の焦点があやふやになってしまいます。私たちの人生において一番大切なことは何でしょうか。それは神様と自分との関係です。自分が心配しているその瞬間にでも神様は自分を守り、導いてくださるなら私たちは心配に陥らないでむしろ人生の正しい方向にむかってすすんでいけると信じます。ですから神様がまず自分を治めてくださるように求めましょう。

そして**神の義！(御心が天で行われるように、地でも行われますように！)！つまり、日々神様の御心にかなう一日となるように、神様に喜ばされる生き方と行う日々の生活と人生として生きるように求める事です。**

一日をはじめながらこのように神様に祈ってみるのはどうでしょうか。もしかするとイエス様は私たちにこのように答えてくださるかもしれません。34 節です。「ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。労苦はその日その日に十分あります。」

**愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰のみなさん!**

とっても忙しいでしょう。そのなかで心配と考えすぎる中におかれていますか。今日の心配だけでもストレスになるのに十分です。それなのにある方は明日の心配まで、ある方は来月の心配までします。明日の事は明日心配しましょう。今日を大切にしましょう。明日のことは明日心配し、今日やるべき事、いまの瞬間自分にとって一番大切なこと、主が私を治めてくださる人生、神様に喜ばされる幸いな人生を求めてみませんか。

いまのときこそ自分の人生の優先順位を明確にし、確実な優先順位をつけるときだと思えます。今日神様が自分に委ねられた人生において優先順位を正しくつける祝福をおしてどんな心配と苦難のあらしのなかでも堂々と克服していく私とみなさんとなりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン!!

